

特集／キラリ輝く★いわての企業

岩手革

ブランドという価値がつくる

守りたいもの、残したいもの

IWATE FOOD&CRAFT AWARD 2019受賞商品のご紹介／4

センターのプロフェッショナル紹介／6

岩手のチャレンジャーたち／6

きたかみ・かねがさきテクノメッセ2019／7

いわて商談会開催／7

ロボット・IoT展開催／7

スマートアグリキャンプ～農業×IoT～／7



工房は月に一度、革に興味がある人たちに開放しており、工業ミシンなども使用できる

ブランドという価値がつくる 守りたいもの、残したいもの

盛岡市／岩手革

大切なものを持続させる

岩手革より前に、さまざまな職業を経て、若き社長が起業したのは飲食店だった。情報誌の営業で蓄積したノウハウを生かす焼肉居酒屋だ。しかし店を営むなかで、ひとつのブランド豚が消えた。それが、価値あるものでも存続できない現実に、危機感を抱く最初のきっかけになった。当時短角牛を扱っていたが、どんなにいいものでも選ばなければ消えてしまう。霜降りの和牛と違って、短角牛は当初人気がなく安かった。

岩手革は短角牛の革を生かすために生まれた。肉が売れないなら、せめて革をどうにかして農家を助けようという思いがあった。ちょうど震災後で、この革を使うことが復興に役立つのではという目論みもあった。そこで、やらないのは悪という企業ポリシーで、新たに岩手革を設立。いわて産業振興センターの「希望ファンド」を活用したり、見本市などに参加しながら事業を展開している。現在は2人体制のため、量産の話には応えられないが短角牛の生産者、そして牛の生きざままで伝える商品を作っている。

国内最高品質の短角牛の革

国産レザーといっても、本格的なものほど海外の革が主流だ。短角牛の革は、さんさ太鼓の皮に使われるほど丈夫である。なんとか短角牛で国産本格レザーを作れないか。国内で



短角牛の革の魅力を伝える商品を。女性には赤が人気



佐々木菜美さんが丁寧に、一つひとつを手作り

なめし革をつくれる会社は数社しかない。そこに同社は短角牛の革を持ち込んだ。その品質を、革のプロが絶賛した。振り返ると、世界のなかで高級レザーとして扱われるイタリアンレザーと、短角牛は成育環境が類似している。潮風をうける牧草地で放牧され、ストレスなく育てているのだ。当然、肉質も似ているため、短角牛の肉

はイタリアンレストランに好評で取引が多いという。

「岩手革」ブランドを育む

商品が持つストーリーがブランドの価値になる。創設から間もなく発表した名刺入れは、平成29年のいわて特産品コンクール知事賞受賞。品質とストーリーが理解され、岩手県で初のクールジャパン製品の認定も受けた。市場は広がり、いまではフランスの店でも取り扱われるようになった。

新進気鋭の企業として、受賞は進む道の確認、自己のポジションを確認する機会になっている。百貨店に置く商品を目指しながら、デザインは毎年、新しいものに挑戦する。アイデアを具現化するときには、居酒屋事業

の社員たちに意見を求めることもある。同社では言う、やる、その上での失敗はOKと、社員と社長の垣根なく言い合える環境がある。その成果が、今年度新しくなった県の特産品のコンクールでグランプリ受賞となった。いつの日か、ファッションのスーパーブランドに、短角牛の革が採用されることを夢見て、この革の価値を育てている最中だ。



意見を聞いて調整しながらさまざまな商品を展開し、その一つひとつに個体識別番号のカードがつく

代表者メッセージ

やったらおもしろいよねが
すべての原動力。
とりあえず行動しようと決めています。

IWATE FOOD&CRAFT AWARD 2019クラフト部門に、今回6商品出しました。自分の開発した商品はあえなく落選(笑)。ですが、社員の佐々木がつくった商品がグランプリに決まりました。日頃、作る人と売る人は、別でなければいけないと思っていますから、今回は営業マンとしてプレゼンできてよかったのかもしれませんが、男性はオールレザーの経年変化などに憧れますが、女性は軽いほうがいいですね。佐々木が考えたデザインは、帆布とレザーを合わせた商品で、レザー部分を使うシーンに合わせて色を変えたりできる商品です。しかも洗うこともできる。ほかの事業の社員にも、こういうシーンで使いたいなんて意見も聞いてデザインを完成させていきます。使いたい、



岩手革 代表
なかむら としゆき
中村 俊行
盛岡市(旧都南村)生まれ。バイク、テニス、ボードなど多趣味。子どもの未来を広げたくて、いろいろな世界を見せるよう活動している。チャレンジが大事、とりあえず動こうがポリシー。



動画でキラリ
会社訪問

使いやすい点が評価されたのではないかと思います。

どんな生産者が、どこで、どんな牛なのか(性別、年齢など)わかる様に、革自体の個体識別番号までわかるカードをつけていますので、大草原で育った牛の物語までお届けできます。そしてゆくゆくは、革がいいってことは、肉もおいしいそだよねと一次産業にもつながっていくのではないかと。いわば天然物の短角牛の肉の良さを革を通じて知ってもらいたい。

月に一度、工房を開放しています。革に興味がある人が集まれる場所にして、革を扱う人口を増やしたいと思っています。将来的には短角牛だけではなく、イノシシやクマ、シカなど岩手にある他の革も扱ってみたいです。

企業DATA

会社名 岩手革	沿革 平成28年／盛岡市で創業	従業員 2名(5名)
代表者 中村 俊行	平成29年／名刺入れ「いわて特産品コンクール知事賞」受賞	URL http://www.iwategawa.jp/
業種 レザー製品製造・販売・企画	平成30年／名刺入れ「The Wonder500™商品」 「クールジャパン商品」認定	
工場 岩手県盛岡市紅葉ヶ丘36-21	キーホルダー「新東北みやげコンテスト」入賞	
電話 019-613-5130	平成31年／盛岡市紅葉ヶ丘に製造工房移転	
	令和元年／いわて短角牛レザーハーフレザーバッグ 「IWATE FOOD&CRAFT AWARD2019 クラフト部門」グランプリ受賞	



≫IWATE FOOD&CRAFT AWARD 2019 受賞商品のご紹介

岩手県及びいわての物産展等実行委員会では、本県の県産品の製造販売に携わる方々の新商品開発を促進するとともに、これら商品等の普及を図るため、「IWATE FOOD&CRAFT AWARD 2019」を開催しました。今年度は、昭和48年より続いた「いわて特産品コンクール」から名称を替え、フード部門、クラフト部門の2部門にて出品者を募集しました。

本誌では各部門のグランプリ、準グランプリ、及び入賞商品をご紹介します。

フード部門



金のなたねと銀のさば
NPO法人イーハトーブとりもと

特選された栗の菜種油と宮古の鯖を使用した逸品。ボックス型のパッケージから覗く鯖の皮目が美しい。そのまま夕飯のメインディッシュにできるほか、パッケージを開封しないまま揉みほぐせばディップへと早変わり。食べ方まで工夫を凝らしている。

●〒027-0096 宮古市崎嶺ヶ崎18-17-19



北上ガレット
(株)アリーブ

北上の季節や風物詩のイメージを4種のガレットで表現。旅情をそそる逸品。文庫本のようなパッケージはかわいらしく、遊び心がある。米粉は西和賀産を使用し、地元産にこだわっている。

●〒024-0061 北上市大通り1丁目3-27-1F



極上 どんこ揚げ蒲鉾
非営利型一般社団法人かたつむり

鮮度が非常に落ちやすいため市場へ出回することは少ないが、実は高級魚の一つであるどんこ(エゾイソイナメ)。地元大船渡産にこだわったどんこを練りこんだ蒲鉾は、噛むたびにどんこ特有の風味が口いっぱいに広がる。

●〒022-0004 大船渡市猪川町中井沢97-1

クラフト部門



**いわて短角牛
レザーハーフレザーバッグ**
岩手革

ショルダー部分が着脱可能で、汚れたら洗える帆布の本体に、気分やコーディネートに合わせて着せ替えができる。3色の希少な短角牛レザーのカバーを付けたリュック。細部までこだわったカジュアルな逸品。

●〒020-0005 盛岡市紅葉ヶ丘36-21



キュットピット
(有)内田販売システム

岩手県産の木材を使用しシンプルなデザインを施した健康器具。傾斜部分に乗り、自分の体重で負荷をかけ、ストレッチや体幹強化のトレーニングができる逸品。全国規模での展開を目指す。

●〒028-2104 宮古市刈屋4-1-1



**八幡平地熱蒸気染色
GEOCOLORのクマさん**
(株)地熱染色研究所

八幡平の地熱蒸気を用いた染色で、深みのある色彩を表現した唯一無二の逸品。ぬいぐるみ一つひとつに個性があり、親しみが感じられる。四季の光に映え、様々な表情を見せてくれる。

●〒028-7302 八幡平市松尾寄木松川国有林559林班ヲ小班



丸行燈
長山工芸

掻き終えた漆の木を用いた逸品。独自に開発した組子細工「南部細目組紋様細工」は、あたたかみのある光を灯してくれる。漆を取り終わり不要となる木材を活用したことも特筆される。

●〒028-5311 一戸町高善寺宇古館平37-9

今年度はフード部門で96品、クラフト部門で97品の出品数となり、昨年度を上回る応募がありました。入賞された商品は、特典として、IFCA専用のWebサイトへ掲載できるほか、受賞作品のPR動画の作成・配信をしていきます。

●お問い合わせ 物産振興担当
TEL: 019-631-3823



受賞式の様子

≫ センターのプロフェッショナル紹介

専門知識を活かし活動していただいている当センターのアドバイザー、コーディネーターをシリーズでご紹介します。

加速器コーディネーター 今 健一

加速器関連企業を経て、平成27年から当センターにてコーディネーターを務める。



▶ ILC(国際リニアコライダー)について教えてください。

ILCは、宇宙誕生の成り立ちを調べる科学実験施設です。宇宙は約138億年前にビッグバンで生まれたとされています。この次世代の実験でビッグバンを再現し、宇宙の謎を解き明かしていく計画です。

▶ ILCの東北誘致の実現に向けた取り組みについて教えてください。

誘致には、世界各国の協力はもちろんのこと、地域の方々や地元企業の協力が不可欠です。現在県内では、岩手県国際リニアコライダー推進協議会やいわて加速器関連産業研究会等を立ち上げ、地元の学生や企業を巻き込んだ取り組みを行っています。

▶ 実現すると私たちの生活の何が変わりますか。

一番は町が変わると思います。施設を誘致するにあたり、地域の産業と国際研究所の関わりは深くなるでしょう。例えば国際基準を満たす技術が生まれるかもしれません。また、実験施設で発生した熱エネルギーを再生可能エネルギーとして活用することで、地域へ貢献する環境が新たに生まれる可能性も考えられますね。

▶ 今後の抱負を教えてください。

現在加速器コーディネーターとして、加速器関連の研究者と地元の企業との間の橋渡しをしています。2030年代の稼働実現に向けて、東北の皆様がILCへの理解を深める手伝いをしていきたいです。



右:大型加速器誘致のゆるキャラ「ヒッグスくん」

≫ 岩手のチャレンジャーたち

新たな事業に取り組む企業関係者をシリーズでご紹介します。

株式会社 モノラボン(盛岡市)

当社は、岩手県工業技術センターが実施した「工芸品の海外向け市場調査関連事業」の参加メンバーが中心となって海外販売を目的とする会社として、昨年設立されました。代表は、通販サイト運営会社(株)ホップス代表の工藤昌代氏。これまでのフィンランドとの交流を活かし、同国の著名デザイナーの協力を経て、デザイン性を追求した鉄瓶、木製椅子、磁器を商品化しました。本年9月には、現地にて「ヘルシンキデザインウィーク」に出展しており、「岩手のものづくりを海外に広める役割を担っていきたい」と意気込んでいます。



株式会社 モノラボン

岩手県盛岡市本宮1丁目16-17 平成30年度よりファンド事業をご活用。

●いわて希望応援ファンドに関するお問い合わせ 物産振興担当 TEL:019-631-3823

≫ ニュースピックアップ

センターに関連する取り組みやイベント、報告など最新のニュースをお知らせいたします。

きたかみ・かねがさきテクノメッセ2019



10月25日から3日間北上市にて北上工業クラブ主催の展示会が開催されました。ものづくり企業や団体が出展し、最新技術の展示や体験コーナーを設けました。当センターでは、ロボットの実演ブースを設置し、一般の方々が見て体感できる又とない機会となりました。

●お問い合わせ 産学連携室
TEL:019-631-3825

いわて商談会開催



ものづくりの取引拡大を目的とするいわて商談会を11月7日に北上市にて開催しました。取引拡大を目指す県内外の受発注企業が一堂に会し、商談及び情報交換を行いました。今年は応募多数で330社を超える企業が参加しました。

●お問い合わせ 取引支援・産業集積担当
TEL:019-631-3822

ロボット・IoT展開催



産学連携ロボット・IoT展を11月7日、いわて商談会との併催で初めて開催しました。製造業・IT関連企業・岩手大学等が出展しました。今後も産学連携を深め、県内ロボット関連産業の技術力向上と取引拡大を図ってまいります。

●お問い合わせ 産学連携室
TEL:019-631-3825

スマートアグリキャンプ～農業×IoT～



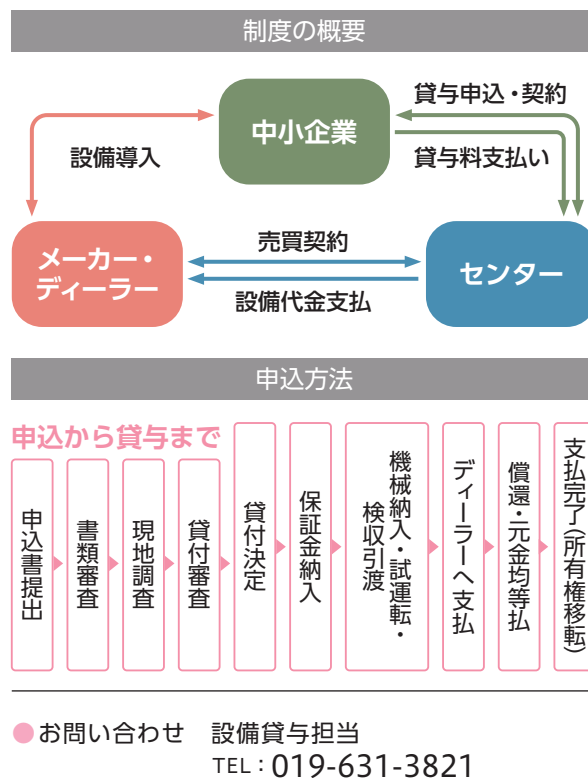
11月27日から2日間、労働力不足が著しい農業生産現場での省力化IoT活用を目指した取組の一環として、スマートアグリキャンプを開催しました。研修会ではセミナーの他、先進農業設備の見学ツアーを組み込み、充実した内容となりました。

●お問い合わせ 生産技術革新担当
TEL:019-631-3822

県内企業の設備導入を支援します

県内中小企業が必要とする機械・設備をセンターが購入し、長期・低金利で貸与する公的な制度です。

対象企業	県内に事業所・工場を有する中小企業 (個人事業者・企業組合・協業組合を含む)
対象設備	自社で使用する事業用設備(建物を除く)
貸与期間	3年～10年(設備耐用年数が上限)
貸与限度額	100万円～1億円
利息	年利 1.1%～1.6% ● 2019年11月1日申込分から利息が 0.1%軽減されました。
保証金	貸与額の10%(最終償還時に返還します。)
無担保	金融機関融資と別枠となります。
連帯保証人	法人代表者1名(個人事業者は不要)
申込方法	所定の申込書記載のうえ、添付書類を添えて、当センターに郵送又はご持参ください。



受発注取引をマッチング支援します

支援対象企業

自動車・半導体・医療機器・IT・アパレル関連企業
(※受注は県内企業に限ります。)

マッチング支援内容

- 受発注の可能性のある企業へ、電話・メール・FAX等でご提案します。
- 受発注企業訪問に当センター職員が同行可能です。
- 首都圏ものづくり発注企業等との受発注取引商談会を開催します。(年2回)

各種取引支援メニューがございますので、お気軽にご相談ください。

● お問い合わせ 取引支援担当
TEL: 019-631-3822

賛助会員募集中です

年会費 一口20,000円

会員特典

- 広報誌「産業情報いわて」の定期送付
- 取引商談会の参加料割引
- 経営管理者向け研修会の参加料割引
- 社内研修用のDVD貸出送料無料

センターの事業は、国や県からの補助・委託事業によって運営されていますが、用途が限定されるため、県内企業の皆様の賛助会費によって、事業費を補っていただいております。

県内企業の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

● お問い合わせ 総務企画担当
TEL: 019-631-3820